

尿道口狭窄症とは？

尿道口狭窄症とは、尿道口（尿の出口）が異常に狭くなる状態を指します。尿道口が狭すぎると、膀胱から尿がスムーズに排出されにくくなり、場合によっては膀胱が完全に空にならないこともあります。治療せずに放置すると、尿路感染症や腎臓の病気につながる可能性があります。

この病気は、割礼後の合併症として多く発生します。尿との接触による尿道口への刺激や、おむつや衣服との摩擦が原因となることが多いです。

尿道口狭窄症の兆候や症状は？

尿道口狭窄症のお子様は、以下のような症状を示すことがあります。

- 排尿困難
- 頻尿
- 排尿に時間がかかる
- 尿の勢いが弱い、または尿が細い
- 排尿開始や排尿の維持が困難
- トイレに尿をうまく向けられない
- 尿が一直線に出ず、飛び散る
- 排尿時にいきんだり、背中を反らしたりする

場合によっては、尿に少量の血液が混じったり、排尿時に痛みを感じたりすることもあります。

尿道口狭窄症の治療法は？

尿道口狭窄症は通常、尿道口形成術と呼ばれる手術で治療します。この手術では、尿道口の下に小さな切開を加えて開口部を広げます。手術は全身麻酔下で手術室で行う場合と、局所麻酔下で診療室で行う場合があります。

手術室で行う場合は、切開後に尿道口周囲に溶ける糸（縫合糸）で縫合します。診療室で行う場合は、小さな切開のみで縫合は行いません。

狭窄が改善されない場合、排尿困難が悪化したり、尿路感染症や腎臓の腫れを引き起こす可能性があります。

手術後の経過は？

尿道口形成術後は、お子様が起きている間は2時間ごとに縫合部分（縫合している場合）に三種混合抗生物質軟膏を塗布してください。また、尿道口のケアとして、1日数回、少量の軟膏を直接尿道口に塗布する必要がある場合もあります。

術後24時間は排尿時に多少の痛みを感じることがありますが、これは正常です。ほとんどのお子様は、不快感がなければ翌日から学校に戻ることができます。

尿を薄めることで痛みを軽減できるため、お子様には日中を通して水分をこまめに摂らせてください。柑橘系のジュースや炭酸飲料は避けるようにしてください。

お子様が排尿できない場合、または手術後も尿の勢いが弱い、あるいは尿が二股に分かれる場合は、医師に連絡してください。

Last Updated: 09/2025 per Katie Potts, RN